

かまきり

第八十六号 二〇〇一年七月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 四三三—三八七

「如水館へ着任して」

校長 田中 啓之

広島経済大学教授から転身して、四月に着任以来、本校の建学の精神「水の如くなくてはならない人になれ」を日々実感しているところです。

うさぎ追いかの山
小鮒つりしかの川
いわずと知れた唱歌「故郷」
さよの歌詞である。

私の少年時代は、この歌詞の通りの毎日であった。山では直接うさぎを追いかけることこそ滅多になかったが、うさぎが走り去ったと思われるところを走り廻り、いろいろな木ノ実を探して食べ、あちこち探検して悦に入ったものである。日が暮れると、満ち足りた気持ちで家路へと急いだ。

川は、家から数十メートルのところを流れていた。幅三メートルそこそこの小川で、川底は一面白い砂、かなりの水量のき

れいな水がさらさらと流れていた。夏はもちろん

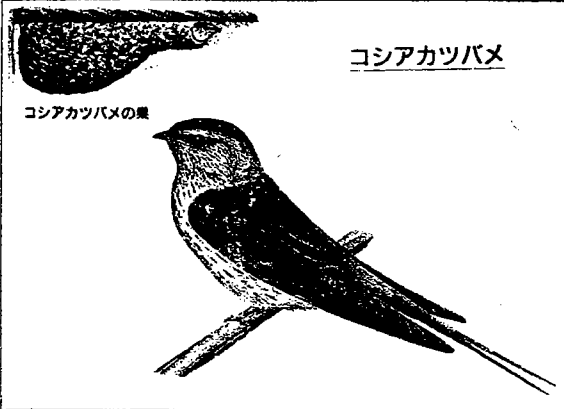
蟹が飛び交っていた。その川の石垣や草の陰に見えかくれしながら小鮒が泳いでいた。台風の時など大雨で増水すると、川下から大小たくさんの鮒がのぼってきて、群れをなして泳いでいることもあった。学校から帰るとすぐに網を持ち出して川へ行き、その鮒をすくい得意満面になったものである。また石垣の中にひそんでいるうなぎを釣ったこともたびたびであった。そうした光景が深く脳裏にやきつけられている。

今日、生活水準が向上し、生活が便利になっても、山があり、小川が流れていた故郷は忘れれることは出来ない。ここ、三原の深町がそんな私の故郷を憶い出させてくれます。この恵まれた環境にある「如水館」で、校長として最後のご奉公ができることを心から喜んでいるところです。学校は、優れた教育機関であ

コシアカツバメ

元 勲報 帳 小林龍一郎

三原近辺に毎年春先に飛来して来るツバメは三種、ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメ。夏休みに入ってもまもなく、学校の玄関タイルの上で三年生の子どもが二人遊んでいた。その頭上には二回目の子育てが忙しいコシアカツバメがしきりと餌を運んでいた。



コシアカツバメ

コシアカツバメの巣

もともと、玄関の掲示板の上には、夏には昨年の古巣があった。夏には二種のツバメが熾烈な戦いをしていた。のっぴりになり功したコシアカツバメは新築するかと思いきや、四日ほどで古い巣を天上に張り出すように、田んぼから泥を少しづつ運びながら作りあげた。コシアカツバメは頭から背へ、翼と尾も黒色、のどから下面全体が淡褐色、その中に黒色の縦斑点が見られる。自力で数千キロを飛び、忘れずに古巣に帰って二羽で子育てをするツバメに不思議な敬意にも似た思いに駆



ると同時に「地域社会に広く貢献できるオープンスペース」としても機能することは、今日の学校に求められる資質の一つと考えます。さらに、「時代の要請に機敏にこたえることのできる学校としての理想像」に如水館が大きく歩み寄る好機でもあります。地域に喜んでもらえる「如水館」を目指して頑張りまします。どうぞよろしくお願ひします。



全日本小学生SB選手権 広島大会に二人出場

六月九日、府中市で行なわれた全日本小学生ソフトボール選手権大会県予選に、三原パワーズチームの補強選手として、深町小六年の巻幡秀平君と岸勇作君が出場しました。

先の県大会三原地区予選で、深町子ども会チームは準決勝まで勝ち進み、その実力を発揮しました。三原パワーズ監督より「ぜひ二名の補強選手を」の要望により実現しました。(井上)

第五〇回市美展入賞者

- ☆写真 市長賞 岡村 満雄さん
- ☆洋画 奨励賞 林 宗總さん

お目出とうございます。

られる。巣の中では濁った鳴き声でしきりと餌をねだる。三分に一回の割りりで雌雄交互に餌を運び、子育てに力を合わせる。親子ともども巣の中を汚さないように、器用に尻を外側に突き出して糞をする。どんなものを食べているか子どもたちとも一日中忙しく餌運びに余念がない。親ツバメを見るとき、教育とはこのように子どもに接することなのだ。教えるためにやるべきツバメのように思えてならない。足は短く、校庭の土の上で見たのは雨後の一時しかなかった。次の機会があれば果の外での子育てを注意深く見てみようと思う。

コシアカツバメの研究は、長い夏休みの成果として作品となった。今年もあの場所にあの姿で映画の一つの場面のように浮かんでくるシーンが展開される季節となった。

▲次は「カブトムシ」または「カワセミ」▲

町内各種団体七月行事予定

- ◆小学校(幼)
 - 水泳教室 言
 - 地区懇談会 言
 - 夕涼み参観日(幼) 言
 - 夕涼み参観日(小) 言
 - 個人懇談会(幼) 言
 - 個人懇談会(小) 言
 - 終業式(小・幼) 言
- ◆女性会
 - 親睦会
 - 上組 言
 - 中組 言
 - 下組 言
- ◆子ども会
 - 海水浴(須波) 二〇日
 - ソフトボール(三葉和会) 二日
 - キックボール(同) 二日

深町「生活環境委員」が決まりました

- 上組 川上 義夫 六四—四〇二
 - 中組 安藤 志保 六七—一七九
 - 中組 新井谷 健 六三—一八〇
 - 下組 河原 榮子 六三—二五〇
 - 下組 助永須眞子 六三—四七四
- ゴミ等でお困りの方は右記の方に連絡ください。

展望

暇に任せて新聞をみていたら本の広告で、お金持ちは次のように考え実践しています。とあった。●「学校」優等生になるよりも、人を見る目を養うことが大切。●「仕事」一流企業のサラリーマンになるより自営業者になる。●「家計」ローンに頼らず、常に収入以下で暮らす。●「買い物」高級品を買って、修理しながら長く使う。●「等」又、豊島の産業廃棄物汚染で問題になった香川県(三三三)の当時の環境保健部長(三三三)が、環境相から「地域環境保全功労者」として表彰を受け、この功労者推薦に「住民抗議」の記事が載っていた。▼これに對し県は、「今回の推薦は環境行政に十年以上従事した者、という基準に沿ったもので、個々の推薦者の仕事を評価しているのではない」との見解を示していた。「功労者」という言葉の解釈が仕事の成果に「関係ない」というのも我々一般市民には馴染めない。▼お金儲けと功労者表彰とは一見何の関係もないようだが、関係のないところに興味がある。前者は「お金を儲ける」ことに全知全能を傾ける。方や一方は、時間の経過を待つのみで、仕事の評価はゼロ。むしろ「功労者」の面からみれば完全なマイナスイメージ。▼政府が検討している公務員人事制度改革案が五月末に示された。能力給の導入が柱だが、能力評価は出来るのだろうか。

深町歴史散策

(9)

高崎 壽郎

金売・大峰鉾山跡
下組の大峰山から金売山にかけて、東西に鉾脈が走っている。(接触変成による)
深郷土誌(昭和三八年発行)の下組の伝説に、「金売山の麓に小社あり、十二子神社と呼ぶ。金堀数家の鎮守の神を祀る。祭神は金山彦尊金山姫尊の二柱で、年代不詳なれど、今より八百年の昔と推定される」とあり、金売鉾山はずい分古くから開かれていたと思われる。
金堀り金売りを「生業」としていた一族があったのだろうか。過日、金堀一氏に案内されて十二子神社(通称じゅうにりんさん)を訪ねた。

そして、金売山付近のいくつかの採掘跡をみせてもらったが、風化が進み坑口を塞いだものもあった。金堀氏の話では、明治、大正、昭和の初期にかけて、銅やマンガンを含む鉾石が採掘されていたとのこと。

県道(尾道・三原線)の尾道市との境付近の小字大峰・一六一五番地で黄銅鉾石が発見されたのは、大正に入ってからである。



喜代子

い間、草木は育たず、近年ようやく特殊な草花が育つようになったと話しておられる。

そして、大正五年(一九一六)上下町のS氏の投資によって採掘が始まった。大峰鉾山である。(現小林徳蔵氏宅地)約十アールを買取り、住宅二棟、採掘場一棟を建築した。
時には数十人も働いていたといわれ、深の人も多かった。撰鉾した鉾石は、大阪地方に販路を求め一時は盛んに営業していたが、鉾脈の埋蔵が予想に反し、中途に休止状態となった。数年後再鉾したが、数ヶ月で又中止した。
太平洋戦争末期の昭和二十年(一九四五)に、上下町のO氏により再度採掘したが、採算が合わず、ついに廃鉾。
先日、大峰鉾山跡を小林氏に案内してもらった。小林氏は「廃鉾後、坑道は子ども達の格好の遊び場所になっていた」といわれて、危険なため今は坑口に金網の柵がしてあり、外から眺めるだけだった。又、「撰鉾後のカスで小山(現在庭の一部)ができていたが、鉾毒のためか長らく育たなかった」と話しておられる。

計算力をつける

チャレンジタイムの取り組み

深小学校 校長 瀬畑美代子

来年度から、完全実施される新学習指導要領に向け、各校の取り組みが始まっています。本校でも、先月号でお知らせしました通り、地域の先生、ゲストティーチャーの方々にお力を借りながら「総合的学習の時間」を展開しているところですが、各教科で身につけた力を発展させた学習はもとより、テーマタイルの取り組みも始まり、自分で選んだテーマだけに意欲的な子どもの姿が見られます。
さて、こうした「総合的な学習」と併せて、基礎学力の定着、即ち、「読み・書き・計算」の取り組みにも力を入れています。中でも、「計算力」をつける為、火曜日と金曜日の一校時、全校で計算力アップに挑戦しています。自分の進度に応じたプリントを選択し、正確さと速さにチャレンジしています。

自分の力に挑戦です。から、「チャレンジタイム」と名付けました。継続する事で「ぼくもやればできるか」といふ成就感を味わいたいと願っています。
本校は、一クラス十四・五人

一、定期総会は五月十二日開催し、平成十二年度行事報告・決算報告の承認の後、平成十三年度行事計画が提案され承認を受けました。主な内容は、盆行事(八月)、町民運動会(九月)、敬老会(十月)を主催すること、又、三原市主催のグランドゴルフ、ゲートボール大会(六月)、市民体育大会(十月)、ターゲットゴルフ大会(十一月)、ビーチバレー大会(一月)に参加することです。この行事計画は、ほぼ昨年と同様となっています。平成十三年度予算案は、総額約百九十六万円が提案され、

紫陽花が雨にぬれて、一層の風情をかもした。今日このごろです。深小学校では六月の二十六日にプール開きをし、プールの泳ぎ子どもたちの歓声が聞こえてきます。
今日は二年生の植田峻輔君の日記を紹介します。

五月二日におやどりがつばめのすを作りはじめ、土曜日にやるとひなが顔をくれました。つばめのおかあさんがえさをあけて、チィチィないてととてかわいかったです。頭の毛がいもうとのもも

深小だより

ちゃんのおたまと同じようにひよろひよろとしかなくて、とてもかわいいです。
ツバメのあかちゃんもさ、それらを愛しいと思う植田君の気持ちがでていて、読む者の心を和ませます。
深小学校のツバメの赤ちゃんもこの日に巣立ちました。子どもたちと一緒にツバメの赤ちゃんの絵をかいたり、話しかけたりと深小学校の一員だったので、このツバメたちの生活を見ながら、私たちもどんに心を和ませたことでしょう。
私たちの周りには、感動する美しい自然があり、気づきさえすれば心とませる小さな生き物の姿があります。このように心がけていきたいですね。

【訂正とお詫】

「ふかまのまど」第八十五号に誤りがありましたのでお詫し、訂正いたします。

- 如水館中・高校 副校長 森坂信幸
- 小学校・幼稚園 養護教諭 藤田あさみ
- 誤 擁護教諭 藤田あさみ

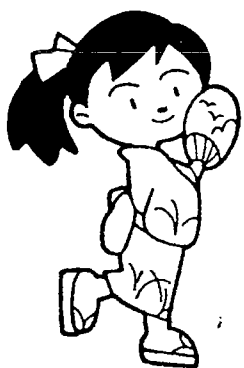
ふるさと賛歌

(7) 石井良雄

- (14) 日本一の松茸の生産県は 広島よ
- 一戸一反 尾根近く 下木を刈って さっぱりと 一挙両得 いいはなし
- みなさん いっしょに やってみたい ないですか

- (15) 一戸一反 玄米を作ってみよ、いや、ないですか 堆肥をやって 無農薬 取れた玄米 粉にして 食べるもよし、売るもよし 生で食べるが よいのです 玄米の里 作ろうよ

(完)



承認されました。主な内容は、体育費へ四十七万円、盆行十八万円、敬老会へ三十万円団体への助成二十万円等となっています。
役員改選では、高崎出組会長に代る梶谷和伸新会長以下の新役員が選出されました。

町内会連合会活動報告

(六月号既報)

役員・体育委員合同会議は五月二十六日に開催し、定期総会決議事項について、新役員による確認を中心として、体育部役員の出等当面の問題について協議しました。
グランドゴルフ大会・ゲートボール大会は六月三日、三原市運動公園で開催されました。
グランドゴルフは、男女共一組三人の二組ずつ参加して健闘しました。
しかし、ゲートボールは、選手が不足して男女共に、残念ながら参加することが出来ませんでした。
両種目共に、市民体育大会の点数に勘定されますので、選手確保のためにも、競技者の底辺拡大が望まれるところで、連合会事務局

私とぼくの修学旅行 (1)

修学旅行を終えて

担任 久保 伸子

晴天に恵まれ、十四名の子ども達との楽しい一泊二日の修学旅行が終わりました。事前には、めあてやきまりを決めたり、見学地について、社会科や図書室の本、資料などで学習したりしていきました。意欲的に調べ学習をしたり、話し合い活動をしたりしている子ども達の姿が頼もしく見えたものです。

さて、修学旅行地では、シーズンとあってどこへ行っても人の多さにびっくり。時間の関係もあって、ゆっくりと心ゆくまで：とはいかなくなりました。子ども達の作文にも見られるように、それぞれお気に入りの場所があったようです。その光景や自分の思いを俳句や短歌に詠

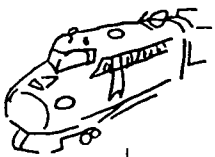
楽しかった修学旅行

井手上 大輔

五月十七日、修学旅行に行きました。行く前にぼくは俳句を作りました。「もうすぐだ、修学旅行楽しみだ。」

ぼくは、修学旅行委員だったので、出発式ではあいさつをしました。そして、先生の話しを聞いていよいよ出発です。新幹線に乗り二時間ほどたつと新大阪に着きました。まず、最初に行ったのが大阪城です。中に入ると、思っていたこととちがう光景が目に入りました。エレベーターがあったり、六階には立体映ろうみたり、テレビがあったりしました。そして各階にもテレビがありました。

次に、法隆寺に行き、東大寺大仏殿に行きました。大仏殿が見えたらびっくりしました。想像以上に大きかったです。大仏の鼻の穴の大きさをくらべても通れませんでした。本当に通れなな仏はでかく見上げていたら首がいたくなりしました。五月十八日、いよいよ修学旅行二日目です。「さあ、いよいよ出発だ。」と思いつながら、平等院にむかいました。まず、鳳凰堂がよく見える所に行き、記念撮影をしました。鳳凰堂をよく見ると、中に大仏が見えました。宝蔵殿では鳳凰の像も見ました。見るからに愛だなあと思えました。頭と体はニワトリ、はら辺りは魚、足はフラミンゴ、しっぽは金魚だからです。次に、二条城に行きました。中に入ると、人がいっぱいいま



むなど、しっかり楽しんでできました。事前の学習で調べ、想像していたことも子ども達の心を大きく揺さぶっていたようです。バスの中でも、ホテルでも、子ども達はとも仲が良く、班行動になった大阪城内や東映太

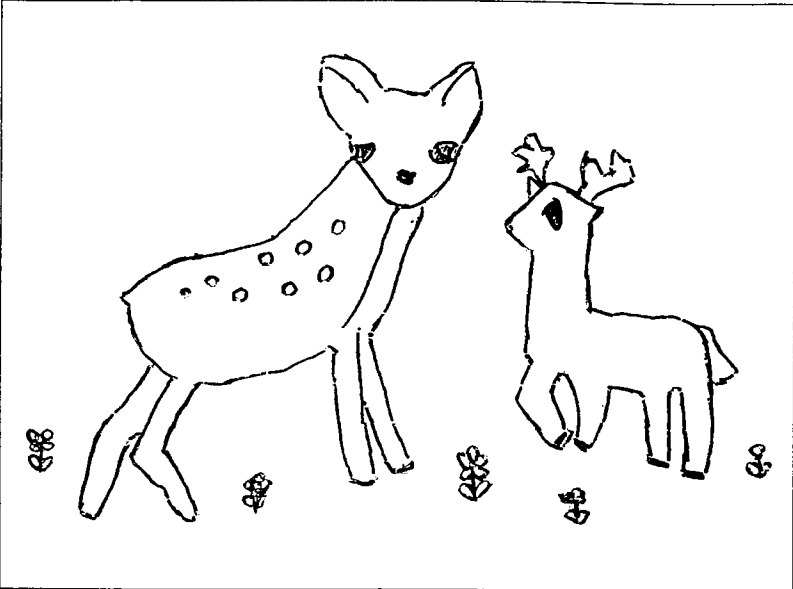
泰映画村では、カメラ片手に、相談しながらうれしそうに回っていました。歴史を伝える展示やビデオの前でじっと見入ったりおみやげ売り場では、家族のころを思いながら、いろいろと選んでいる姿が印象的でした。きっと、家に帰っておみやげを開きながら、楽しかった修学旅行の話に花が咲いたことでしょう。子ども達にとつて、この修学旅行は、忘れられない思い出の出来事になったに違いありません。国語の香子所にも、「十二歳の記録」という単元があります。が、子ども達の向える十二歳というこの一年間が、自分を見つ

目、振り返り、これからの成長の第一歩となるよう、願っています。深小学校へ赴任したばかりのまだわからない事だらけの私ですが、素直で明るい十四名の子ども達と共に、これからいろいろな活動をしていきたいなあと思っています。▲▲

楽しかった修学旅行

村井 太一

「これからいろんな所に行くんだな。」と思うとむねがドキドキした。ぼくは今、修学旅行に向かう新幹線の中だ。それから二時間で新大阪駅、さらに一時間で大阪城に着いた。大阪城はきらきらしていてとてもきれいだ。入り口には大ほうろくもあって、たこ石の突如もあって、「いよいよ前写真もとったし、」といよいよだ。「と、思いながら中へ入ると、びっくりした。



ぼくがびっくりしたのは、人がいっぱいいたからでも、あまり古かっただからでもない。その逆だ。あまりにもきれいな景色で、それはデパートのようだ。大きいシャツやコートなどもあったがあまり元気が出ない。が、がっかりしながら大阪城をあとにした。

大仏はでかい

岸 優作

楽しみにしていた修学旅行が終わりました。大阪城では大きな石がぎっしり詰まっています。法隆寺では五重の塔が、東大寺では大仏、平等院では鳳凰、二条城では金閣寺の美しさなど、一つ一つの場が、すごく心に残りました。

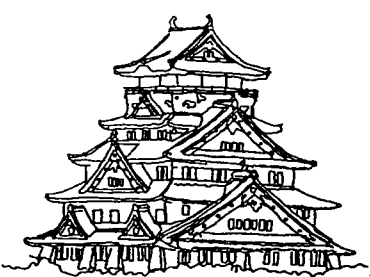
その中でもやはり一番心をひかれたのが、東大寺の大仏でした。奈良公園に着くと、はじめにシカを見ました。体は大きいく目はまん丸で、とてもかわいいう動物です。シカせんべいを上にあげると、「くださいな。」と言っているように、首をさげると、シカせんべいもかわいいです。みんなもとてもかわいかったです。でも、ぼくは「早く大仏を見たいな。大きさはどのくらいだろう。先生の何倍くらい大ききかな。」と、とてもいいよ、目の前に大きな東大

その反対におもしろかったのが、東大寺だ。大仏は仁王くらい、東大寺は大仏くらいだと思っていたけれど、その大きさにびっくりしながらガイドさんに着いて行き、鼻の穴の大きさをくらべて、鼻の穴は想像より小さかった。

次に、穴に入る順番にならんだ。ぼくは二番目だ。もうぼくの番が来た。「巻幡君が通れたんなら、それより小さいぼくは絶対通れるはずだ。」と、自分に言い聞かせながら手を入れた。かたがつまらな。びっくりして一度引くと、もう一度ななめに入った。今度は通れた。柱の中はつるつるしていて、すっぱりと出られた。「はい、ポーズをとってえ。」ポーズをとると先生が写真を撮ってくれた。「もう一度通りたいな。」と、思ったけど通れなかった。東大寺を出るとすぐホテルに着いた。ごはんを食べて夜店でおみやげを買った。

次の日、金閣寺は人でいっぱいだった。池ははははがたまっていたけど、金閣寺がうつってきれいだった。帰ってから二日間の事を家の人に話したり、おみやげをわたりたりした。とても楽しい二日だった。▲▲

「でっか。」想像以上に東大寺大仏殿はビックリでした。それから、ぼくは、下をむいて歩きました。理由は、大仏をいきなり見たかったからです。吉野君が、「わあ、ぶちでかい、キッシー見てみたいや。」と言ったから、上を見上げると目がくらみそうになるほど、それは大きなものでした。ガイドさんの声は耳に入らず、ぼくは、大仏をずっと見ていました。みんなは、少し先に行っていたけど、ぼくはまだ見つづけていました。すごく感動しました。そしてぼくは、あわててみんなについて行きました。家に帰って話をすると、母さんと父さんは、東大寺に行っただけで、おみやげも買って帰りました。母さんたちは自まんじゅうを食べて、修学旅行は、とても楽しかったです。機会があったらまた行ってみたいですね。▲▲



2001/5 17-5.18

待ちに待った修学旅行

小林 沙央実

今日から、待ちに待った修学旅行です。前日からドキドキしていました。朝八時前の新幹線に乗り、約二時間で新大阪に着きました。約かしきりバスで大坂城の見学に行きました。大坂城に入る前にびっくりしたのは、石がけの石の大きいです。この石は私たちの何倍もの大きかったです。「こんな大きな石をどうやって運んできたのかな。」と思いましたが、でもガイドさんの話を聞くと、丸太を下にくくりつけて海や川をわたって来たということがわかりました。そして、中で金の茶室などを見て、次の法隆寺へむかいました。法隆寺は世界最古の木造建築です。法隆寺では、五重のとうや、玉虫厨子を見ました。その玉虫厨子は、約二千五百匹もの玉虫の羽をつかってありましたが、今は一つぐらいしか残っていました。

東大寺とホテル

唐谷 麻美

法隆寺の次に東大寺に行きました。東大寺の中に入ると、どまん中に大仏がいて、予想以上に大きくてびっくりしました。その横に柱があって、その柱に大仏の鼻のあながほられていました。みんなその中を通りました。私も中を通る時、すぐとおりにけることができてよかったです。東大寺を出て、天平ホテルにむかいました。バスからおりる時、まいこさんを見ました。前から会って見たかったです。くうれしかったです。みんなバスの中から、まいこさんを必死で見つけていました。その時に短歌を作りました。

バスの中 ホテル近くでまいこさん みんなきれいだしろいはだだよ。ホテルへ着いて晩ごはんを食べた後、みんなでおみやげを買いに行きました。夜店はにぎやかで、品物もいっぱいありました。そこは、修学旅行の人たちですごく混雑していました。でも、私は買いたいの物がみつからなかったで、買いたいの物をしる友だちを待っていました。それから、部屋に帰り、買った物をこずかい帳に付けたり、日記を書いたりしました。三人でふとんをしいて話しをしていました。▲

くて残念でした。でもそこで働いたおじさんが、かい中電灯で光をあてて見せてくれました。一つだったけど、とてもきれいでした。いよいよ、東大寺大仏殿へ行きます。先生にもらった鹿せんべいを鹿にあげて、大仏殿に入りました。大仏殿の大きさにびっくりして、入ると大仏さんの想像以上の大きさにまたびっくりしました。ひと通り見て、鼻の穴をこわごわ通り一日目の見学を終えました。ホテルに泊まり二日目。今日最初の見学地、平等院の見学をしました。そして鳳凰などいろいろと見学して二条城に行きました。二条城は、うぐいすばりのろ



快慶

待ちに待った修学旅行。私は、六時半に起きて、持ち物の確認を済ませました。三原駅で、出発式をして、新幹線に乗りました。それから、トランプをしたりしているうちに、新大阪に着きました。最初は大阪城です。私が、大阪の茶室でした。『秀吉は、ごうかな物が好きなんだなあ。』と思いました。次に、法隆寺、東大寺と行きました。東大寺の大仏が入っている建物を、あまりの大きさにびっくりしました。中に入りしよと、びくびくして、いきなり大きな大仏が目にとびこんできました。写真をとりました。次からは、平等院、二条城、金閣寺とまわりました。金閣寺と鏡湖池の前で、写真をたくさんとったので、卒業アルバムに

楽しかった修学旅行

満田 紘美

次からは、平等院、二条城、金閣寺とまわりました。金閣寺と鏡湖池の前で、写真をたくさんとったので、卒業アルバムに

また行きたい修学旅行

中重 智仁

五月十七日、七時十分ごろ家を出た。そして、十一時頃大坂城に入った。いよいよ大坂城に入れるんだとおもった。

うかで、キュンキュンいって楽しかったです。敵が入って来たらわかるような仕組みになっていました。そして金閣寺へ行きました。金閣寺へ行くとおふだをもらって、中に入りました。金閣はキラキラ光ってとてもきれいでした。鏡湖池にうつる金閣も光っていました。

心に残った修学旅行

辻本 勇樹

五月十八日。ぼくが一番最初に起きて、それから次々とみんなが起きた。もう修学旅行二日目か。早いなあ。とぼくは思った。昨日は東大寺の大仏が印象に残っていた。その日も、バスガイドさん達に元氣よくあいさつをし、昨日と同じ席にすわった。平等院、二条城、金閣寺、映面村に行つた。深み深い田舎もあれば、高い建物が立ち並ぶ大都會もあった。二条城のうぐいす張りでは、キュンキュンと音が鳴るので、すぐおもしろかった。そして、待ちに待った映画村だ。ぼくは修学旅行に行く前か

入りたいです。金閣寺は、もう見られないかも知れないから、しっかり見ておきました。最後は、いよいよ映画村です。着いたらまず、サムライの格好をした人と記念さつえいをしました。次にお弁当を食べて、班行動をしました。おみやげ売りに行くと、おたべちゃんの人形焼とか、いろいろ売っていました。私は、おみやげに、ちりめんさいふを買いました。それからはいろいろ見て、おばけ屋敷がありました。こわかったので入りませんでした。大きいおみやげ屋さんがあったので、そこでお姉ちゃんにんじやのキーホルダーを買いました。お母さんのハンカチも買いました。そのうち、集合時間になりました。急いでもどりました。そして、みんな集まりました。写真をとって、バスにもどりました。すっかりおみやげも買ったので、楽しかったのでよかったです。▲

まず一番上に上がって、そしてだんだんに下りていった。特に八・五階が心に残った。八階はながめがよくて、大阪の町がよく見えた。六階は、人形で戦いの状況を再現している所が二カ所あった。三・四階は、よろいや刀、巻物が展示してあった。大坂城を出る時、カメラがなくなつたのに気づいたけど、も

ひと通り見学すると、修学旅行最後の映画村へ行きました。映画村の中へ入ると、お昼ごはんを食べて、班での自由行動が始まりました。まず、班の満田さんと唐谷さんといっしょに中を見て回りました。江戸時代のかっこうをしてる人がいて、撮影もしている人がいました。そして、おみやげ屋さんで、私は八ッ橋を買いました。二時二十分集合だったので、そのぐらになつて集合場所のふん水の前に集まり、映画村を出ました。バスガイドさんや運転手さんにあいさつをし、新幹線に乗って帰りました。

「たのしかったね。」と言っていました。私もとても楽しかったです。私もとても六年生の思い出で、修学旅行。ぜったいに忘れません。▲



う取りには帰れなかった。あとでカメラをバスの運転手さんにもらった。運転手さんは、とてもやさしい人だった。このあと、法隆寺、東大寺に行つて、ホテルについた。次の日は、平等院、二条城、映画村に行つて帰った。映画村は、昔の町なみを再現していた。映画に使われた道具も展示してあった。いろんな物を買えると思った。高くてほとんど買えなかった。帰りはとても長かった。また行つてみたい所がたくさんあった。▲

私とぼくの修学旅行 短歌・俳句

短歌

石がきは 大阪城のシンボルだ

砂田 晃良

古い歴史を伝えてくれる

村井 太一

奈良公園 春の思い出しかせんべい

あげたらかわいくペコリとおじぎ

唐谷 麻美

バスの中 ホテル近くで まいこさん

見ればきれいだ 白いはだだよ

渡部 裕也

るしやな仏 夕日を受けて かがやくぞ

まばゆい光は 心を開ける

小林 沙央美

大仏さん 想像以上の 大きさに

みんなびっくり感動したよ

吉野 良

六年の 春の思い出 忘れない

みんなで行った 修学旅行

藤本 博也

二条城 うぐいすばりは いい音色

みんな小またで キュンキュン歩く

小川 雄理

駅の前 修学旅行のおみやげを

両手に持って 笑顔で帰る

中里 智仁

映画村 いろんな所を 歩いたら

ぐうぜん出会った さつえい風景

井手上 大輔

東大寺 大仏よりも 大仏殿

その大きさに びっくりしたよ

辻本 勇樹

金閣寺 光りがやき 足とまる

心の光も かがやきを増す

満田 絃美

金閣寺 金がびかびか 光ってて

新緑の前で ハイチーズ



俳句

夕方に キラキラ光る るしやな仏

巻端 秀平

その大きさに みんなびっくり

大仏の 鼻の穴をくぐれば 列になり

岸 優作

みんな写真に っこりチーズ

春の日に 光りがやく 鹿苑寺

砂田 晃良

新幹線 修学旅行に さあ行くぞ

村井 太一

五月晴れ 大阪城の 天守閣

唐谷 麻美

鹿苑寺 春の太陽 すずしそう

渡部 裕也

金閣寺 春の太陽 うけ光る

小林沙央美

桜花 見せてあげたい 大仏に

吉野 良

五重のとう ならんでいると 春の風

藤本 博也

金閣寺 ほうほう光る 春の朝

小川 雄理

春の日に 夕日を受ける 東大寺

中里 智仁

東大寺 みんな行ったよ 春の日に

井手上 大輔

大阪城 修学旅行の 一歩目だ

辻本 勇樹

大仏さん 夏の日ざしで 暑そうだ

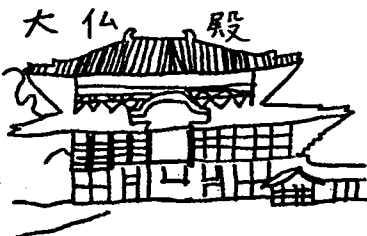
満田 絃美

五重塔 修学旅行の 行列だ

巻端 秀平

春に見た 修学旅行の 東大寺

岸 優作



カブト虫博士誕生?

深沢 瀬畑三子代

先日、地域在住の西永さんからたくさんのカブト虫をいただいた。

さっそく、大型水槽にカンナくずを入れ、玄關に置いてみんなで観察する事にした。立派な角を持ったオスは、勇ましく堂々たる風格で、角でもって力比べを始めた。

子ども達は、授業のあい間や休憩時には、カブト虫の水槽の前に集まっては、「カブト虫がほしいのー。」

「校長先生、このカブトどうするん。」

「てたまらないらしい。」

「西永さんはね。観察したり研究したりする為にくださったのだから、観察する子にあげるよ。」

「観察するけえ。」

「研究ぜったいするけえ。」

と皆、意欲満々である。次の日、本を買ってもらったり、かこの用意をしている子さえいた。

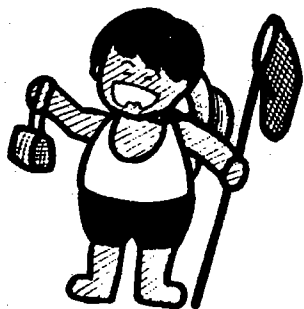
「意欲がある時は、伸びる時かと思う。図書室へ行って図鑑を見て熱心である。」

子ども達のために、新聞紙で模擬の幼室(幼虫が住む部屋?)を作り、幼虫から成虫までを観察しやすいように配慮してくださっていた。

全校朝会の場を借りて、「科学研究のしかた」という条件をつけて配慮する事にした。

長い列ができ、結局、くじびきという方法で子ども手に渡る結果となった。当たった子どもは大喜びで、次の日、ノートや紙に研究の成果をうれしそうに見せに来た。一生懸命に書いた字で、カブト虫の習性や行動、成虫になる様子が記されていた。

「よく調べたね。羽の様子や角の大きさ、色など、絵や図を入れて書いてもらってよくなるよ。」とアドバイスして帰した。



結局くじで外れた多くの子ども大型水槽で成虫になったカブト虫を希望者全員、もらう事ができ、皆、満足しているのではないかと思っている。

私自身、長く飼育するには、オスとメスを別居させる方がいい。(交尾すると子孫を残し早死にする)。

スイカやメロンを与えるとか、カブト虫のえさのゼリーは、ピタミン入りですごく高価である。

等、今まで知らなかった事も分かった。

今年の夏は、深小学校・幼稚園の子どもの中から、カブト虫博士も多く誕生するのでないかと秘かな願いをもっているのだが、観察は続いているのだ。

私とぼくの修学旅行 (2)



感動した大阪城

吉野 良

六年になって思い出に残る修学旅行に行きました。朝早く、ねむたいなか集合場所に行く、もうみんな来ていました。そして、そこで先生の話を聞いて、見送りに来てくださった校長先生や家の人たちにあいさつをして新幹線に乗りました。新幹線の中では、友だちと遊んでいると、すぐ着きました。大阪城についたら、石がきを見ました。大きくていっぱいあったのでびっくりしました。ごほんは、ちらしずしとごんでした。そのあと、A B C D班にみんなで大阪城に入りました。入ったからエレベーターがあったのでびっくりしました。みんなで乗

楽しかった修学旅行

小川 雄理

新幹線に乗って新大阪に着きました。そして、バスに乗って大阪城、法隆寺、そして東大寺の大仏殿に行きました。先生が、しかせんべいを買ってくれたので、あげあげ歩きました。すると、東大寺の大仏殿が見えました。おそろおそろ大仏殿の中に入ると、すごく大きい大仏が目に入ります。この時ぼくは、「こんなに大きい物を昔の人はどうやって作ったんだろう」と思い、自分の目をうたがいました。そして、大仏の鼻の穴と同じ大きさの柱を通りました。かんたんに通ることができてほっとしました。

光りで、輝く、金閣寺

渡辺 裕也

修学旅行の二日目に、金閣寺に行きました。チケットみたいな物をもらって、中に入りました。中に入ったら、金閣寺が輝いていました。金閣寺の周りには池がありました。池には、金閣が映り、光っているように見えました。そこで短歌を作りました。「鹿苑寺 光る太陽 背にうけて ぼくの心も まぶしすぎるぞ」

金閣寺にみとれていたら、みんなが先に行っていたから、走って追いかけてました。店がいっぱいあったら、またみんなをとられていたら、またみんな

苦しかったです。上に着くとまず外を見ました。みたらとてもいい風景でした。大阪城には緑が多かったです。そして、先生たちに写真を撮ってもらいました。

それから班に分かれて行動しました。班は村井君、藤本君、巻幡君とぼくです。カメラをもって今いる最上階でおみやげを見ました。次は、六階におりていろいろな旗を見たり、戦っている人たちの人形を見たりしました。そこでまた写真を撮りました。次は五階で古い歴史のテレビを見たり、人が使っていたかぶとや刀を見たりしました。そして、どんどんおりて一階でみんなを待ちました。そして、次の見学地へむかいました。大阪城はすごくよかったです。

旅館へ行く途中、まいこさんを見ました。はだはとて白く、赤と青の色の着物を着ていました。まいこさんが見れてよかったです。

次の朝、ぼくと岸君は四時三十分頃に起きました。でも、まだ外は真っ暗かったです。そして、朝ご飯を食べて、旅館の人にあいさつをし、バスで二条城に行き、うぐいすばりのゆかを歩きました。しずかに歩いて「ギーギー」と音がして、ぼくは、「これなら敵がきても気がつくな」と思いました。そして金閣寺に行きました。目の前に広がる金がすごくきれいでした。一番上には、金の鳳凰がいました。

「金閣寺 鳳凰光る 春の朝」

その後、映画村に行き、三原駅に着き、今度は短歌を一つ「駅の前 修学旅行のおみやげを 両手に持って 笑顔で帰る」

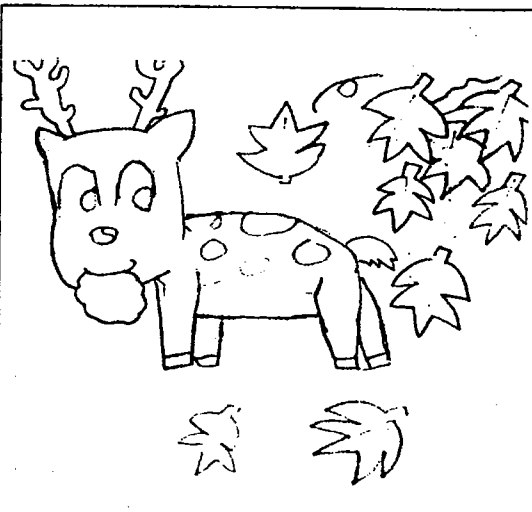


いろいろな学んだ修学旅行が終りました。また、行く機会があれば行きたいです。

一番メインの映画村

巻幡 秀平

修学旅行の一番のメイン、うずまさ映画村。映画村の中に入ると、一番最初に記念撮影をした。みんながずらっとならんで、その間におさむらいさんのかっこうをした人が入った。写真を撮った後、ご飯を食べた。



心に残った大阪城

砂田 見良

今日は修学旅行。すぐに新大阪に着いた。そして、バスガイドさんに案内され、バスに乗った。バスの中ではバスガイドさんの話を聞きながら友達と話をしていました。そして大阪城についた。ぼくが一番楽しみにしていた大阪城さびっくりした。

「うわっ、すごいでかいね」。と、班の人と言いながら歩いて行った。桜門の前にはその石がきに使われた石が置いてあった。こんな大きな石をどうやって運んだのだろうと思った。ガイドさんの話によると、石に大きなたるをくりつけて海から運んできたそう。そのあと、空ぼりをのぞきこむとすごく深かった。敵の侵入をふせぐために作ったのだろう。

大阪城の入り口には大砲があった。そして中に入るとエレベーターがあり博物館になっていた。想像とはまったく違って、八階まで上がり外を見ることがすごく高くて感動した。そこから班中のメモをとったり写真を撮ったりしながら下りていった。立体映像のテレビや、歴史を教えるテレビもあった。また、大阪城のまわりの大坂城と徳川氏の大坂城だった。比べると、徳川氏の大坂城の方が大きかった。今の大阪城は平成になって改修され、すごくきれいだ。やっぱり

おみやげ店を見に行った。でも、そこにはほしいものがなかった。次のお店では、ほしいものが高すぎたので、全然買えなかった。そこで、班のみんなで行くことにした。でも、人がすごくいたのでひき返して、いろんなところに行ったりして、ほしいものをさがしていたら、テレビ撮影をしているのに出会った。でも、三十秒ほどで終わった。あのシーンはいつ使うのかなあと思った。残り時間が十分くらいになったら、いいものを見つけた。それは映画村の絵が入ったコップだ。その後、おさむらいさんのキーホルダーを二個買った。そして、班のみんなで行って記念撮影をして、集合場所までみんなを待たせた。

修学旅行の思い出

藤本 博也

今日は修学旅行です。車で三原駅に行きました。そして新幹線に乗り、約二時間ゆられて新大阪に着きました。まず最初に行ったのが大阪城。一階から八階まで、資料館になっていました。大阪城の中は、模型で表現されていました。八階は大勢の人が外をながめていて、大阪の町が見わたせました。上から見ると下の人が小さく見えました。風がふいて、とてもすずしかったです。

その後法隆寺に行き、夕方ごろ東大寺へ着きました。東大寺の大仏の鼻の穴の大きさと同じ穴を通る時、すごくドキドキしましたが、鼻の穴はかんたんに通りぬけることができました。これでやっと一日が終りました。

次の日は平等院、二条城、金閣寺とまわりました。金閣寺は、ぼくが一番楽しみにしていた所です。金閣寺の上には鳳凰が輝いていました。金閣寺をバックに写真も写しました。二・三階は、金ばくがはってあり、ピカピカしていました。とてもきれいでした。金閣も最後は映画村。映画村は楽しかったけど、買うものがあまりありませんでした。映画村は期待していたほどではありませんでした。でも、撮影現場などいろいろ見たりできました。

修学旅行はいい思い出になりました。

ぼくにとって大阪城が一番心に残った。

